

IV 特別支援教育研究連合 各研究部会

「この研究は公益財団法人日本教育公務員弘済会
宮崎支部からの助成金を受けて行っています」

視覚障がい教育研究部会

1 研究主題

「たしかな専門性を土台とした新たな学校づくり」

2 主な研究・活動の内容

昨年までの2年間、実態把握や有効な指導・支援の方法等の専門性の継承が困難になってきているという背景を受け、各発達段階に必要な指導内容や指導法を「継承していくべき専門性」という視点で改めて情報を共有化し実践に結びつけた。新学習指導要領も順次告示される中、大きく教育活動を見直す時期ともなっており、これまでの歴史を大切にしながらも、新たな視点による学校づくりの必要性を痛感する状況となっている。そこで、令和元年度からの2ヶ年計画で、昨年度までの研究およびこれまでの教育実践を土台としながらも、これからの時代に対応した教育活動の在り方について研究することとした。また、昨年度と同様に、視覚障がい教育を実践している明星視覚支援学校と3校の弱視特別支援学級とが、本県の視覚障がい教育の充実を目指し、情報共有や連携のあり方を模索すると共に、各発達段階や実態に合わせた指導のあり方について研究していくことにした。

(1) 合同研修の場の工夫

視覚障がい教育についての研修の場を確保し、最新の情報を発信していくことも本部会の一つの役割である。今年度は、以下のように2回の合同研修会を企画し、明星視覚支援学校と弱視特別支援学級の職員が共に研修する場を設定した。

① 第1回合同研修会「見えづらさのある児童への配慮事項について」

昨年度、明星視覚支援学校小学部が校内研究として、小学部における基本的指導事項や配慮事項について整理し明文化した。その冊子を活用しながら、各校での取組を紹介し合ったり困っている点について共有・協議したりした。

② 第2回合同研修会「視覚障がい教育研究部会夏季研修会」

毎年本部会で計画している研修会である。今回は、大分県立盲学校で長年勤務し、視覚障がい教育における研究を精力的に行い、九州地区の視覚障がい教育を牽引してこられた小中氏を講師として招聘し講演会を開催した。また、視覚障がい児の学習に使用し有効であった教材教具の研修会を同日開催とした。

ア 講演会

演題：「合理的配慮を視点とした幼児児童生徒理解の在り方～大分盲学校の実践を通して～」

講師：大分県立盲学校 教諭 小中 雅文 氏

研修会のアンケートでは、「大分県立盲学校の実例をもとに具体的で分かりやすかった。」という意見が多数あった他、「視覚支援学校における合理的配慮については、幼児児童生徒が社会に出て生きていく上で自ら必要な配慮を求めていく力をしっかり養っていくことが大事だと思った。」という声も挙がった。明星視覚支援学校が県内に唯一の視覚支援学校であるからこそ他校の実践を中心とした講演会を企画することで、弱視特別支援学級を含め、各校での課題解決に繋げたい。

イ 教材教具研修会

手作り、既製品を問わず、指導に効果的であった教材を展示し、閲覧し合った。見えづらさに配慮した教材や触って学べる教材等、職員同士が互いに学び合う場となった。講師の小中氏も見学し、子どもたちが触りたくなる教材、わかりやすい教材についてのアドバイスをくださるなど充実した会となった。

③ 第3回合同研修会「見えづらさのある児童への配慮事項について」

第1回の研修会と同様である。

(2) 情報共有の工夫

① 研修資料、動画の提供

明星視覚支援学校が新任者を対象に行っている視覚障がい教育の基本的事項についての研修（基本研修～眼疾、視覚障がい教育、点字2回、教育機器2回、歩行2回、弱視教育、進路、計10回）や、新任者以外を対象により高い専門性を身に付けることを目的として行っている研修（応用研修～ICT、白杖前歩行指導、弱視レンズ指導、理療科での指導、点訳のポイント）について、資料と動画に残し、自主研修や寄宿舎研修および弱視特別支援学級の職員等が有効に活用できるようにした。

② 職員図書の実践

年度初めに視覚障がい教育関連の図書について紹介した。その後は、研修部室に保管することで自由に書籍を閲覧できるようにし、職員が研修できる環境の整備を行った。次年度は、月に一度書籍の紹介をする等工夫し、職員に視覚障がい教育関連の図書をさらに身近に感じてもらえるような取組を行いたい。

(3) 明星視覚支援学校及びサテライト会場における情報提供活動

明星視覚支援学校、サテライト会場（延岡しろやま支援学校）において、視覚障がい児（者）の生活や学習に有効な福祉機器類を展示し、個人や関係各所への情報発信を行った。

(4) 各研究班におけるテーマ別の取組、研究大会への参加

明星視覚支援学校を中心に下記の研究班に分かれて研究・実践に取り組んだ。

- ・ 視覚障がい幼児が楽しむ授業づくり
- ・ みやもう入門小学部版の深化～さらなる活用を求めて～
- ・ 中学部における学力向上を目指した指導の実際～生徒の実態に応じた点字力の向上と学習習慣の確立について～
- ・ 新学習指導要領を基にした本校の課題分析～総合的な探求の時間の指導・支援の在り方に関する研究～
- ・ 本校における鍼施術時の感染症対策について～実習での実践と課題の分析を通して～
- ・ 卒業後を見据えた生活スキルの向上を目指す支援・指導の在り方～一人暮らし体験の取組から～

3 主な研究成果

物理的な距離もあり、本部会の加盟校同士が連携し、共に活動することは非常に難しい状況にあるが、合同研修会として共に学ぶ中で、連携を深めることができてきた。この取組は次年度も継続したい。本部会の代議員会では、夏季に行う研修会の講師及び内容、研修会に係る費用を含めた研究費用の予算等を協議していくこととなっている。本校を拠点に会を設けているが、遠方の弱視特別支援学級の担当者が会に参加しにくい状況がある。そこで、担当者が参加しやすいよう、第1回及び第3回の合同研修会を同日開催とし、代議員会に参加した後、専門的指導力の向上を目指した視覚障がい教育を共に研修する場を設定した。今後も会の運営方法等については、柔軟に対応していきたい。また、明星視覚支援学校を中心とした研究班では、多岐に渡る研究を2カ年計画で進めている。昨年度行った研究の深化を目的とした研究、新学習指導要領に対応した研究の他、昨年度開設された幼稚部においては視覚障がい幼児の発達を促す豊かな教育活動の実現を目指す研究を行っている。今年度の取組を踏まえ、次年度はさらに今後の宮崎県における視覚障がい教育の未来を見据えた課題研究に取り組んでいきたい。

聴覚・言語障がい教育研究部会

1 研究主題

「子供の主体的・対話的な学びに導く聴覚・言語障がい教育の在り方
～人とかかわる力を高める支援を通して～」

2 主な研究・活動の内容

(1) 年間活動報告

① 活動計画

ア 6月28日 第1回学校代表者会・研修会

会場：みやざき歴史文化館

(ア) 総会

(イ) 事例発表 宮崎市立 赤江小学校 吉本 聖子 教諭

テーマ 「赤江小学校ことばの教室 実践報告」

(ウ) 聴覚・言語障がい教育研究会研修会

難聴言語障がい教育研究会第2回研修会

イ 11月15日 第2回研修会

会場：都城さくら聴覚支援学校

(ア) 授業見学

(イ) 研究発表 都城さくら聴覚支援学校 幼稚部 有川 加奈子 教諭

テーマ 「障がい認識の視点からみた幼稚部段階における環境の設定についてや指導の在り方について～肯定的な自己像の発達を目指して～」

(ウ) 講演

演題 「聴覚障がい児の学力育成の基本となる構文指導について」

講師 鹿児島国際大学 福祉社会学部福祉学科 教授 蓑毛 良介 氏

② 各大会への参加

ア 第53回 全日本聾教育研究大会 高岡大会

令和元年10月17日(木)から18日(金)まで

イ 第43回 九州地区難聴・言語障害教育研究会 福岡大会

令和元年 7月29日(月)から30日(火)まで

ウ 第24回 九州地区聴覚障害教育研究大会 久留米大会

令和元年11月20日(木)から21日(金)まで

3 主な研究成果

- 事例発表や研究発表では、それぞれの幼児児童の発達段階や実態に応じた環境整備や、教材、教具の工夫によって、子供の主体性を引き出し、自己肯定感を高める指導について学び合うことができた。
- 都城さくら聴覚支援学校での学校見学では、幼小中高の子供たちが、それぞれの年齢や発達に応じて伸び伸びと自己表現する様子を見ることができ、聴覚支援学校の教育の実際を知ることができた。
- 鹿児島国際大学の蓑毛教授の講演は、聴覚障がい児の構文指導についての基礎的な事柄や指導方法等実践に基づく具体的な内容で、言語障がい教育にも大変参考になるものであった。

情緒障がい教育研究部会

1 研究主題（テーマ）

情緒障がい教育における個に応じた支援の在り方について

2 主な研究・活動の内容

事業名	期 日	場 所	内 容
第1回事務局会	5月24日（金）	大宮小学校	・事業計画 ・第1回理事会について
第2回事務局会	6月10日（月）	大宮小学校	・第1回理事会 ・夏季研修会について
第1回理事会	6月21日（金）	大宮小学校	・事務局会報告 ・夏季研修会について
第3回事務局会	7月24日（水）	佐土原小学校	・夏季研修会の資料準備
第2回理事会 総会及び研修会	7月29日（月）	佐土原総合文化センター	・総会及び研修会 実践発表：谷口 一恵 教諭 講 演：月森 久江 氏
事務局研究会	8月25日（金）	宮崎市教育情報研修センター	・令和2年度九情研宮崎大会に向けて
第4回事務局会	9月10日（火）	大宮小学校	・九情研宮崎大会実行委員会 ・第2回研究会について
第1回研究会	10月28日（月）	櫛中学校	・令和2年度九情研宮崎大会の発表者 レポート検討
第47回九州地区情緒障害教育研究会 鹿児島大会	10月31日（木） 11月1日（金）	鹿児島市 かごしま県民交流センター	・理事研修会、分科会打合せ 情報交換会 ・記念講演、分科会、基礎講座
第5回事務局会	11月21日（木）	大宮小学校	・宮崎大会 実行委員会
事務局会運営会議	12月27日（金）	佐土原小学校	・宮崎大会に向けた各班の作業
第6回事務局会	1月17日（金）	大宮小学校	・宮崎大会 実行委員会
事務局研究会	1月28日（火）	大宮小学校	・第3回理事会に向けて
第3回理事会	2月18日（火）	大宮小学校	・次年度の事業計画について ・宮崎大会 実行委員会
第7回事務局会	3月2日（月）	大宮小学校	・本年度の反省 ・次年度の事業計画について

3 主な研究成果

(1) 成果

夏季研修会では、「児童の自己肯定感を高める通級による指導—「木台っ子日記」と「漢字の読み書き」の実践—」というテーマで、谷口 一恵 教諭が実践発表を行った。

また、月森 久江 氏（東京都杉並区済美教育センター指導教授）を講師に招き、「特別に支援を要する児童生徒への学習方法の工夫～愛着に問題をもった子どもへの学習支援～」の演題で講演会を開催した。県内から約350名の学級担任等が参加して、実践について研修を深めた。

また、次年度の令和2年度九州地区情緒障害教育研究会宮崎大会の発表者である、藤田 司指導教諭のレポートについて検討し、自閉スペクトラム症の児童生徒への支援について研究を進めることができた。

(2) 課題

自閉症・情緒障がい特別支援学級に在籍する児童生徒は年々増加傾向にあり、多様化する教育的ニーズへの対応に苦慮する状況もみられる。教員の専門性を高め、指導力の向上を図るとともに、保護者や関係機関との具体的な連携についても、さらに取組を進める必要がある。

また、次年度の九州大会に向けての準備等を今後も計画的に進めていく必要がある。

知的障がい教育研究部会

1 活動

「知的障がい教育研究部会運営の見直しについて」

2 主な活動の内容

(1) 年間活動報告

期 日	会議内容及び活動概要	会 場
6月21日	第1回理事会及び総会	みなみのかぜ支援学校
2月 7日	第2回理事会（予定）	みなみのかぜ支援学校

(2) 全国大会、九州大会等への参加及び協力

- 全日本特別支援教育研究連盟全国大会「埼玉大会」令和元年10月17・18日
参加者 5名
- 九州地区特別支援教育研究連盟研究大会「鹿児島大会」令和元年10月30・11月1日
参加者 32名（九州地区情緒障害教育研究会「鹿児島大会」と併催の参加者）
提案発表者
◇第1分科会 日常生活の指導 「生きる力を育む日常生活の指導」
提案発表者 県立延岡しろやま支援学校 教諭 河野 博之
司会者 県立延岡しろやま支援学校 教諭 水野 啓三
助言者 宮崎県教育庁 特別支援教育課 指導主事 黒木幸博

◇第7分科会 合理的配慮の実際 「ユニバーサルデザインの視点と個に講じた環境設定」
提案発表者 都城市立梅北小学校 教諭 西脇 眞由美

3 主な活動の成果

本年度は、知的部会の研究大会は開催せず、今後の運営の見直しを行った。県特研連研究大会を毎年ブロック部会として6ブロックに分けて持ち回りで開催しているため、その大会を県大会として位置付けて、知的部会の研究大会については、ブロック部会に重ならないように、県北部、県南部、県西部、県央部に分けて、隔年で会場と担当をローテーションで回し、特別支援教育セミナーといった内容の研究会として開催することで、県央地区に研究大会の仕事が集中することなく、各地区の独自性や考え方をすすめていくことができるようにした。

来年度から、2年に一度の研究大会開催を行うにあたり、県北部（延岡・西臼杵・日向）、県西部（都北・西諸）、県南部（日南・串間）、県央部（宮崎・東諸・東児湯・西都）の各支援学校が担当校として、研究会の運営を行う。来年度から令和2年・3年の担当校は日向ひまわり支援学校が運営をすることに決定している。研究大会実施の会場費や講師招聘旅費などを考え、予算を20万円として実施していく。今後の運営がスムーズに行くよう、内容を検討したり、関係機関との連携を行ったりしながら、本部会の充実を図っていきたい。

病弱教育研究部会

1 研究主題（テーマ）

「新学習指導要領を踏まえた、学校づくり・授業づくり」

2 活動内容

(1) 年間活動報告

期 日	事 業 内 容	その他 ・ 備 考
5月 7日	病弱部会 理事会・総会	
7月26日	病弱部会 理事会	
8月 1日 2日	全病連 宮城大会 〃	発表者：赤江まつばらPTA会長
8月 7日	病弱教育研究部会 研修会	宮崎市 清武文化会館小ホール
8月21日 22日	九病連 沖縄大会 〃	発表者：本校小学部職員
2月10日	病弱部会 理事会	

(2) 病弱虚弱教育研究部会研修会について

ア 期 日 令和 元年 8月 7日（水）
イ 内 容 講演会・ワークショップ
テ ー マ 「こころの病気のある児童生徒への支援・配慮」
講 師 独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所
発達障害教育推進センター
主任研究員 藤 田 昌 資 氏
インクルーシブ教育システム推進センター
主任研究員 小 西 孝 政 氏

3 主な研究の成果

(1) 成 果

本年度の研修会では、宮崎市および東諸県郡の小学校・中学校の先生方へも声かけを行い実施した。内容概略は、「Co-MaMe」を用いた児童生徒の実態把握方法や変容を探る内容であった。小学校や中学校の自閉症・情緒障がい支援学級等においては、生徒の実態把握に困っている様子があるため、今回の研修に対する評価は好意的なものが多かった。

(2) 課 題

病弱教育研究会として専門性を高めることは必要であるが、汎化を考えると、知的障がいや情緒障がいも視野に入れる必要がある。ながら、病状の把握やこれに伴う心理的葛藤の対応及び学習空白のサポートなど、本研究部会会員の専門性を向上させていきたい。

肢体不自由教育研究部会

1 研究主題

確かな実態把握に基づいた、一人一人の多様な教育的ニーズに応じた授業づくり

2 主な研究・活動の内容

(1) 活動内容

本部会は、清武せいりゅう支援学校と延岡しろやま支援学校（肢体不自由教育部門）で組織され、肢体不自由教育を推進し、会員の資質の向上を図ることを目的としている。この目的を達成するために、研究大会の開催や肢体不自由教育に関する調査研究等を行っている。

①活動計画

月	肢体不自由教育研究部会事業	その他の関連事業
4月		
5月		九州地区肢体不自由教育研究協議会 役員会及び総会（佐世保市）24日（金）
6月	第1回理事会・代議員会 6日（木） 場所：延岡しろやま支援学校	
7月		県特研連研究大会 （日向東臼杵ブロック主管）26日（金）
8月	第23回 肢体不自由教育研究大会及び 第2回理事会・代議員会 1日（木） 場所：延岡しろやま支援学校	
9月		
10月		第56回九州地区肢体不自由教育研究協議会 長崎大会 16日（水）～18日（金）
11月		第65回全国肢体不自由教育研究協議会 青森大会 13日（水）～15日（金）
12月		
1月	第3回理事会・代議員会 10日（金） 部会誌第24号発行 場所：延岡しろやま支援学校	
2月		
3月		

②第23回肢体不自由教育研究大会

午前中は（株）沖ワークウェルよりシニアアドバイザーの津田 貴 氏を講師に招き、「社会と繋ぐ～肢体不自由教育の充実に向けて～」という演題で、講演を行った。何が仕事になるかわからないこれからの新しい時代に向けて、御社での業務内容や遠隔勤務の形態、ワークウェルコミュニケーターの紹介、特別支援学校との遠隔職場実習を通じた連携についての実践等を紹介していただいた。これからの教育支援およびキャリア教育において先進的な取組は大い

に参考となり、たくさんの情報を得ることができた。参加者からは「障がいのある人たちの可能性は無限大だと感じた」、「肢体不自由教育の今後の進路選択の幅が広がったように感じる」、「働くという考え方が変わる講演だった」等の感想が寄せられるなど、好評であった。

午後はテーマを「肢体不自由教育の未来～これから何ができるか～」と設定し、7つの小グループに分かれ、情報交換会を行った。「できる経験を積み重ねて『～したい』という気持ちを引き出していきたい」、「色々な選択ができるような提示、好きなところを見つけ、伸ばしていくことが必要」、「働きたいという気持ちを引き伸ばしていきたい」というような内容が取り上げられ、各グループとも盛んに意見交換や実践の紹介等が行われた。また、障がいの重度重複が進む中で、修学旅行の実施に向けた課題や日々の学習の悩みなども挙げられていた。

3 主な研究成果

本年度は、3回の理事会・代議員会を開き、第23回肢体不自由教育研究大会を開催し、1月に部会誌第24号を発行する。清武せいりゅう支援学校と延岡しろやま支援学校（肢体不自由教育部門）の両校の抱える課題や疑問点について意見交換や情報の共有を行い、大会に向けて講師の選定や演題の設定、情報交換会のテーマ設定などの準備を進めることができた。再来年度に本県で開催される九州地区肢体不自由教育研究大会に向けた準備も進めているところである。今年度の反省を活かして、次年度および九州地区肢体不自由教育研究大会につなげていきたい。

また、助成金なども計画的に運用し、職員の資質向上および児童生徒の日々の教育の充実を目指した専門性を向上できる部会となるよう努めたい。